

和歌山大学  
経済学部同窓会

# 柑芦わかやま

南出陽一(高商7回・故人)筆

柑芦会和歌山支部

編集発行人 久山 稔  
〒640-8567 和歌山市西汀丁36  
和歌山商工会議所2階  
山中盛義事務所内  
TEL 073-423-1231  
FAX 073-433-4066

## 意義ある同窓会活動と支部活動の有りようを問い続け



柑芦会和歌山支部  
支部長久山稔  
(大経6期)

例えば、柑芦会とのご縁の生まれたのはもう43年も前、私の勤めた紀陽銀行の12代以前の頭取が旧制・和歌山高商の出身で、柑芦会・和歌山支部長を務めたことがそのきっかけである。

大昔のことになるが、私はその頃、初めて初級管理職・人事部研修課長代理に着任し意気軒昂な時であった。その秋10月のある日、上司より呼ばれ1週間後の、柑芦会支部総会への動員の要請を受けた。人事部からの依頼と言う権力を笠に着ての仕事は最も嫌な事であった。受話器の向こうの行員の顔が見えるようだった。私の同窓会活動との出会いに甘い思い出は無い。

もう一つ、同窓会組織の運営に疑問を感じるできごとがあった。何とはなしに幹事長という役割を担っていた平成19年1月19日の幹部役員会での出来事である。10年程前である。主な議案として来年度の役員改選が協議された。審議に入るやいなや、何の前触れもなく「次の支部長は久山さんをお願いしようでは無いか」と提案され、「賛成！、賛成！、拍手！」と誰かが叫ぶと、一斉に拍手が起きそれで決定となってしまった。私の支部長という役割は苦い記憶から始まった。

しかし引き受けた形になった以上、放って置く訳にもいかず、同窓会活動のあるべき姿、支部活動のあるべき姿を模索し続けながら、ただし、出席動員など意味の無い慣例は切り捨てて、大学が立地している地元支部として意味のある活動となるようささやかながら努めてきたのである。

- 学部の枠を越えて繋がる
  - ・南紀田辺で初めての経済学部・教育(学芸)学部合同同窓会の開催
  - ・地元NPO法人の留学生支援活動を応援
  - ・新卒地元就職者とのフレッシュ人財交流会開催
- 地元ニーズに応えた大学の活動支援
  - ・地域連携・生涯学習センター、産学連携・研究支援センター、紀の国大学/COC+推進室などの活動を会員に紹介支援
- 支部活動の基盤強化
  - ・世代別支部幹事の選任
  - ・大学院や夜間で学んだ卒業生会員の拡大

大学は内外諸情勢の急激な変化に対応すべく変革を迫られている。同窓会で出来ることは限られているが、更に意義のある活動に専心すべきであろう。

今、84歳と言う歳になり振り返ると、「柑芦会」との出会いには若気の至りで反発心もあったが、自分にとって有意義な経験の積み重ねだったなと勘づくのである。それは大学教授の方々と交流の場が広がったり、県内の別の業界や諸団体の方々から教えて貰えることが増加し、繋がりの輪が広がったことである。

昨年、秋から体調を崩し長期入院しようやく年末に退院し、今もまだ車椅子が手放せない。余生をどう過ごすかが最大の関心事という中で、同窓会での日々を振り返りつつ「面白いよなあ人生って」と笑えるのである。



和歌山学生服会社制服製造業界の大御所との懇談(小島社長)

### 柑芦会和歌山支部「令和2年度・支部拡大役員総会」開催のお知らせ

次の要領で、令和2年度の和歌山支部拡大役員総会を開催いたします。昨年と同様一般会員も交えての講演会・総会・懇親会にぜひ出席をお願いいたします。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更になる可能性があります。

開催日時：令和2年5月23日(土) 午前10時30分開会 懇親会費3,000円

開催場所：ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2丁目10番地 073-424-9392

①講演会：10時30分～11時30分 講師：南方熊楠記念館 谷脇幹雄 館長(経済学部 院44期)  
演題「南方熊楠に何を学ぶか」

②総会：11時30分～12時20分

③懇親会：12時30分～14時30分 13時～「宝子さん(教育学部OB)」のミニコンサート

\*出欠の可否は、右上E-Mail(支部事務局・山中盛義メールアドレス：m\_yamanaka@cure.ocn.ne.jp)、にて5月1日までにご返信下さい。なお、出席連絡には「期別」・「氏名」の記載をお願いいたします。





## 「創設100周年に向けて」



和歌山大学長  
伊東 千尋

柑芦会和歌山支部の皆様には、日頃より母校和歌山大学の教育・研究へのご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。昨年は、和歌山大学が新制大学として創立されて70周年の記念すべき年となり、記念式典を吹上の附属中学校で、記念祝賀会を西高松の松下会館で実施いたしました。和歌山県知事、和歌山市長、国会議員、県議会議員の皆様をはじめとして多数のご来賓を迎え、さらに柑芦会をはじめとする本学卒業生の皆様にも多数ご参加いただき、無事に終了できました。この場をお借りいたしまして、改めて感謝申し上げます。

また、本学創立70周年を記念する事業として、松下幸之助氏のご寄付により設置された松下会館を学生と社会の接点として再生する事業、栄谷キャンパスのグラウンドを全天候型に変え防災機能を付与し高機能化する事業、の二つを進めることといたしました。

松下会館は、建設から既に59年を経て、劣化が進んでおります。しかしながら、和歌山市街の中心部に近い立地は、和歌山市における本学の存在を示すシンボルとしての価値をいまだに保っています。本学は松下会館の新しいミッションを、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) に掲げられる目標の17番「パートナーシップで目標を達成しよう」とし、本学の産学官金連携、リカレント教育や生涯教育の拠点とする計画です。この新しいミッションの実施に耐え得るように、老朽化した施設に手を入れ、整備を行ない、松下会館を和歌山大学の地域貢献のシンボルとして活用したいと考えております。

和歌山大学が栄谷キャンパスに移転してかれこれ33年が経ちます。システム工学部と観光学部の設置もあり、多くの建物が栄谷キャンパスに設けられました。現

在、教育学部棟の改修を手始めとして、順次キャンパスの改修を進める予定としております。この栄谷キャンパスを、現在のそして将来の和歌山大学の中核地として、魅力あるキャンパスとする事業が、栄谷キャンパスのグラウンド整備です。グラウンドを全天候型とすることで、多くのクラブ活動に活用できると同時に、国際レベルの競技大会などが実施可能となり、栄谷キャンパスに市民、県民の皆さんが集まる機会が増えると期待されます。さらに防災機能を付加することで、いざという時の備えとすることができます。

この70周年記念事業の実施にあたり、ご寄付を募りましたところ、320件を超えるご寄付を賜り、ご寄付いただきました金額は3,300万円を超えました。より良い事業を進めるために、本年度もご寄付を受付させていただき予定でございますので、さらなるご支援をいただけましたら、ありがたく存じます。

和歌山大学は設立当初から、和歌山の皆様に支えられて今日を迎えました。本学が栄谷キャンパスに移り、本学の活動が地域の皆様の目に留まり難くなったと言う声を耳にします。地域の皆様に、改めて本学に足を運んでいただき、活動を観ていただくこと、そして可能であればその活動に加わっていただくことが、地域に貢献する大学として、あるべき姿だと考えます。そのために、我々は本年4月より、地域連携活動を和歌山大学の基幹ミッションとして位置づけ、地域とともに新しい価値を創造することを目標として、「紀伊半島価値共創基幹」という組織を立ち上げました。この組織では、紀伊半島の価値を創造・開拓し、発展させていく活動を大学と地域が一体となって実施することを目指します。

この「紀伊半島価値共創基幹」の設置は、70周年記念事業と同様に、地域における和歌山大学のあり方を再構築し、地域における本学の価値を創り出そうとする活動であり、和歌山大学100周年への布石となると確信しております。この活動に、皆様のご理解と厚いご支援を賜ることができましたら幸甚です。

最後になりましたが、柑芦会和歌山支部の更なるご発展と会員皆様のますますのご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。



## 地方国立大学経済学部のこれから



和歌山大学経済学部長  
マグレビ・ナビル

経済学部が3学科から1学科への改革したのが2016年度でした。そして、今年3月改革後初めての学生が卒業しました。

その学生たちにとって「わかやま[学]」という教養科目は必修科目でした。さらに、1年生の時に履修する「プログラム概説」では、6つのプログラムの概要すべてを理解しなければなりません。

そのプログラムの中には「地域公共政策・公益事業」や「グローバル・ビジネス&エコノミー」もあります。前者のプログラムは地域課題に回答するべく尽力する人間を育成します。後者のプログラムはグローバルに活躍する人間を育成します。

ですが入学後最初には「わかやま[学]」、「プログラム概説」の両方を学修し、地域と世界との両方について思索しなければならないことになっています。

世界は不確実性に満ちています。今年の初めに流行ったコロナウイルス自体は経済問題ではありませんが、これが経済環境に与える影響は甚大です。人・もの

カネが動かなくなりました。和歌山県の地域経済の状況は悪化し、資金のやりくりで苦しむ中小企業向け融資対策などが提示されていますが、いつまで続くのかわからない状況に産・官ともに疲弊しています。

これが、現実です。人間の経済活動は環境とつながっています。経済問題は経済だけで完結するわけではありません。地方の中小企業はグローバルに世界とつながっています。地域課題は地域だけで完結するわけではありません。さらに、今後はどのような不確実なことが待ち受けているか分かりません。

これからの世界、日本そして和歌山地域を支えるべく、経済学部は、このような不確実性の中でも、慌てず、むしろその環境の中で力を発揮することができる人材をこれまで以上にしっかりと育成する必要があります。

そのためにも、地域課題を解決することに挑戦しようとする学生には、よりグローバルな視点と分析方法を、逆に、グローバルに活躍することを希望している学生には、地域の課題への視線や地域の人とのコミュニケーションの場を提供することが経済学部には求められていると思います。

具体的な一つの方法として、経済学部は留学生をもっと多く受け入れるべきではないかと考えております。身近に異なる価値観・世界観を有する存在がいてくれることで、自ずから広く長期的に思考することが容易くなります。また、それらの存在とともに地域を見直すことで新たな地域の価値などを再発見することができます。

しかし現状では、留学生を受け入れる態勢が十分とは言えません。地方国立大学の経済学部としての今後の役割を発揮できるように、是非、皆様からのご協力を賜りたいと存じます。

## 和歌山大学創立70周年記念事業募金の概要

募金名称：和歌山大学70周年記念事業基金

基金目的：「和歌山大学 高松地区松下会館再生事業」「和歌山大学 栄谷キャンパス グラウンド改修事業」

募金目標額：3億8千万円 内訳 松下会館再生事業 2億5千万円  
栄谷キャンパス グラウンド改修事業 1億3千万円

募集期間：令和元年7月～令和3年3月 募金対象：個人 法人 団体など

和歌山大学基金室 電話 073-457-7089 kikin@ml.wakayama-u.ac.jp

## 和歌山支部年会費お支払いのお願い

和歌山支部は支部会員の年会費で運営されています。

年会費は3,000円で、主に支部事務局の運営、柑芦わかやまの発刊に使われます。

支払は、同封の振込用紙（郵便局用と紀陽銀行用）のいずれかをお使いください。

なお、ネット等の振込に関しては、下記紀陽銀行口座をお願いいたします。

振込の際にはお名前の前に卒業期等を入れてください。（例：ケイ42コウロ タロウ）

紀陽銀行 本店営業部 普通預金 789216

## 特集 働きながら学ぶ その1

### 「勤且学 OB 座談会」

現在は過去の未来であり、未来の過去である。  
過去を知り、現在を知ること未来が見えて来る。

働きながら学んだ先輩方の軌跡を訪ねることで今後の母校の社会人教育の方向を探りたく、OB 座談会を開きました。新型コロナウイルス肺炎の蔓延が警戒される中にもかかわらず5人の卒業生の方にお集まりいただきました。

#### 1954年(昭和29年)4月 和歌山大学 経済短期大学部 経営学科第二部 開学

勤労の傍らで学業に勤しむ人々のための夜間部  
第1期応募者数319名、入学学生数(男110、女4)



短大創立当時の学志館全景  
「和歌山大学経済学部50年史」より

#### 第1期 南方希式氏

現役時代は労働省(現在の厚生労働省)に勤務し京都労働基準局次長を最後に退官しました。当時のことですので、大学の施設はお世辞にも立派とは言い難いものでしたが、しかし仕事持ちの夜間学生として、向学心に燃え、意気盛んでありました。<南方希式氏(神戸市在住)は時節柄参加できず、当日、激励のメッセージを頂きました。>

#### 第2期 山本一郎氏

株式会社貴志安商店 本社営業部長  
和歌山県石油協同組合 副理事長  
日本ボーイスカウト和歌山連盟 連盟長  
父親がラバウルから九死に一生を得て復員、その時受けた戦傷がもとで46歳で亡くなった。20歳で現在の勤め先に就職(勤続64年になる今も、毎日9時から17時まで勤務している)、父が残した言葉に従い、ラジオも、新聞も、牛乳も止めて、出費を節約し、勤め先に給与や勤務時間を配慮してもらい入学した。中学校教員免許も取得した。仕事の傍らボーイスカウトのボランティアを70年間行っているが、これだけ続けているのは県下で自分1人である。

#### 第6期 津田泰孝氏

和歌山大同青果株式会社 代表取締役会長  
高等学校を卒業して青果卸の仕事に就いた。青果の仕事の傍ら夜間に学ぶのは大変だったが親の勧めで入学した。頑張っって中学の教員免許も取得した。

家業は中央卸売市場で今では和歌山の青果卸売市場を二分するまでに育った。現在は家業を二人の息子に任せ、家内と余暇を楽しんでいる。



#### 第27期 中筋英司氏

和歌山労働局 雇用保険電子申請  
事務センター センター長

4年制大学の工学部を目指し受験勉強中に国家公務員試験を受けたところ合格、18歳で和歌山公共職業安定所に就職した。

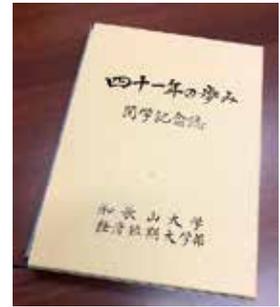
昭和52年4月に入学したが、職を持って入学する人は30%程だった。昭和31年当時は90%の人が職持ちだったというから随分な時代の変化だ。経済学部に在学する同級生の紹介で紀雲寮にも出入りし、全日制の他府県の学生とも交流した。

職業安定行政に60歳定年まで勤め、現在は再任用短時間勤務として継続雇用されている。

#### 第30期 三宅安幸氏

あさかわシステムズ株式会社 代表取締役社長  
大学を卒業後に就職、コンピュータ関係の仕事に就いていた関係で、32歳の時に一念発起して学年最年長で入学した。単位に関係なく興味のある情報関連の科目を多く履修していたら、卒業単位が不足する事態となった。体育の授業にスキー実習があり、それで不足単位を補い無事に卒業できた。その時に覚えたスキーの腕前のお蔭で、今もシーズンには家族と一緒にスキーを楽しんでいる。

雨漏りのする教室にゴム長靴に背広ネクタイ姿で講義された先生、年代物のコンピュータなど、今では懐かしい思い出だ。



「勤且学」はこの本に寄せられた、二代学長岩崎真澄先生の揮毫です。

1987年（昭和62年）7月  
西高松 1-7-1 より栄谷 930 に移転

1992年 学生募集が最後となる  
在学者数 360名（うち女子 86）

1993年（平成5年）  
和歌山大学経済学部夜間主コースの  
設置により経済短期文学部は  
学生募集を停止

1996年（平成8年）9月30日正式廃止

2007年（平成19年）4月 夜間主コースを廃止し  
観光学科を設置した。

## 経済学部第58期 石橋美幸氏

地方公務員

高校卒業後、食品卸の会社に就職したが、仕事で関係する多くの人が大卒なので進学を決意し、勤め先の応援を得て、入学した。湯浅から高速道路を経由して、始業時間の5時40分に教室に辿りつくのは大変だった。

コースが廃止になるので卒業単位を落としたらどうなるのだろうかと不安だった。



働きながら学んだ、忘れ去ってはいけない、この母校史の系譜を将来に活かす意義についてのお考えを、お聞きしました。

世間では文系大学生は、あまり勉強しないと思われている。その点、昼間働きながら、尚、学ぼうとする人は意識が高い。

昼間働く受講生に大きな負担を与えないよう、交通至便な市街地に拠点を置き、聴講生制度も活用するのが良いだろう。

事業を志す人は切実に高度な実践的知識を求めている。受講者数が見込めるかどうかは疑問だが、大都市部にあるビジネススクールのような形が和歌山で育ったら良いと思う。

システム工学部の先生方や、生徒さん達で起業されている方がいる、その方達にも接したい。学部の枠を超えた実践的知識が得られるスクールは地域にとっても意義があるのではないか。

今般の行事にご協力頂いたOB諸氏に厚くお礼申し上げます。（柑芦わかやま 編集部）

## 紀雲「書評」同好会のご案内

会費不要・出欠自由・退会自由

ジャンルは問いません。読んだ本を評価を交えて紹介しあいます。

ネットの時代になって、若者は、あまり書物に親しまなくなりました。高齢になって、老人は、あまり書物に親しめなくなって行きます。そこで、一冊読めば十冊読んだことになる目的で、この同好会を立ち上げました。

時間：毎月 第四火曜日 午後二時から開催

会場：和歌山市駅前アイプラザ（市駅から南へ徒歩2分）

主催：柑芦会和歌山支部

事務局：090-8533-6614 atsumi@beach.ocn.ne.jp（渥美）

## 本号では「働きながら学ぶ」を特集しました

小中高を経て大学に行く、当たり前のように思っていますが、外国人留学生に接すると年齢がまちまちな学生が居て、社会人や兵役経験と大学との間を交互に行き来するのは外国では普通なようです。

和歌山大学経済学部の同窓生にも働きながら大学・大学院で学んだ方達が居ます。

特集では、そんな視点で母校での学びを取り上げてみました。



## 特集 働きながら学ぶ その2

### よたび 四度 和歌山大学で学ぶ

経済学部大学院 古井幹也(52期)  
和歌山市内ホテル勤務



こんにちは

現在、私は和歌山市内のホテルで勤務しております。2012年の4月、44歳の時に和歌山大学経済学部にて三年次編入の許可を頂き、卒業後は科目履修生を経て、2017年49歳の時に大学院へと入学の許可を頂きました。

過去には19歳の時に、高松にあった和歌山大学経済短期大学部に入学し、その後いったん退学し、改めて21歳の時に栄谷の和歌山大学短期大学部に再入学を致しました。

このように、私はご縁を頂戴し和歌山大学に合計4度入学をさせて頂いております。当初、大学へ入学しようとしたきっかけは学士卒の資格を得ることでしたが、卒業後も大学院の授業を取り続けたのは興味深い授業に出会ったからでした。その授業は足立基浩教授による中心市街地活性化論でした。

足立先生は、授業の中で何度も『経済学は街の医学である。もし今が活気がなくても、きっと将来は街を活性化することができる。』と仰られていました。

学問を学ぶということは、専門的な知識を得ること

に加えて、今は駄目でもきっと将来は良くなれるという希望を持つことができることであり、そしてそれこそが研究の醍醐味であると仰っています。

そして、会社員であり、かつ大学で学ぶ環境に身を置けるということは、大変貴重で有意義な時間を過ごすことが出来ていると感じています。それは、実務上で下した判断をアカデミックな視点から再度見直すことができるからです。また逆に、アカデミックで得た専門知識や思考方法を実務にフィードバックできることも大学で学ぶ魅力のひとつでもあります。

私がこうして和歌山大学で、学ぶことが出来ているのも、多くの先生方や職員さん、生徒の方々のご配慮とご協力があったことです。皆さまの多大なるお陰で、大学生活を送ることが出来たと考えています。本当に心より感謝致しております。

これからも学ぶ場所と教授して頂ける先生方、そして学びたい人々のトライアングルがうまく機能していくことが大事であり、特に時間と場所に制限が付きやすい社会人の学生にとっては授業の動画配信などのフレキシブルな環境づくりが重要ではないかと考えています。今後も知の源泉である大学には、地域の司令塔の役目を担って頂きたく存じます。

OECD(経済協力開発機構)が発表している教育統計より一部抜粋、各国の大学・大学院の平均進学年齢

		入学年齢		10	20	30
アジア	日本	大学	18.3	[Green bar]		
		大学院	21.9	[Red bar]		
	韓国	大学	18.9	[Green bar]		
		大学院	34.2	[Red bar]		
ヨーロッパ	イギリス	大学	21.0	[Green bar]		
		大学院	27.7	[Red bar]		
	フランス	大学	20.8	[Green bar]		
		大学院	24.2	[Red bar]		
	ドイツ	大学	22.0	[Green bar]		
		大学院	24.2	[Red bar]		
アメリカ合衆国	大学	不詳	[Green bar]			
	大学院	29.6	[Red bar]			

2019. OECD 経済協力開発機構 教育統計より

## 特集 働きながら学ぶ その3

### 南紀熊野サテライトで学ぶ！

和歌山大学地域活性化総合センター准教授／  
前 南紀熊野サテライト代表 西川一弘

#### 1、南紀熊野サテライトの歴史

和歌山大学紀南サテライト(当時)は和歌山県との連携のもとに、2005年4月に田辺市の和歌山県立情報交流センター Big・U内に設置されました。当初は高等教育機会の提供が主な事業内容でしたが、大学の地域連携窓口機能も強化され、2008年に地域連携コーディネーターが配置されました。2010年7月の機構改革により、現在の南紀熊野サテライトへ名称変更を行いました。



南紀熊野サテライトがある和歌山県立情報交流センター Big・U

#### 2、南紀熊野サテライトの機能

大学の“サテライト”の多くは大都市・駅前型に立地する「都市型サテライト」ですが、南紀熊野サテライトは県庁所在地から離れた地方都市・中山間地域をターゲットにした「地域型サテライト」の先駆けです。大学の研究・教育機能やシンクタンク機能を活用して、紀南の地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」を目指し、地域研究や学生のフィールドワークのコーディネート、人材育成事業としての「南紀熊野観光塾」の開催、サイエンスカフェの実施など、多彩な事業を展開しています。また、和歌山県が事務局となっている「和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会」や地元の自治体・商工会議所・JA・大学が協働で設置した地域シンクタンクである「きのくに活性化センター」との連携も行っています。

#### 3、高等教育機会の提供

2005年の設置以降、南紀熊野サテライトでは地域をテーマとする高等教育を提供、プロデュースしてきました。2018年度までの集計では、大学院経済学研究科の修了生が8名、大学院科目の受講者数が延べ384名、学部開放科目の受講者数が延べ1062名にもものほりまです。授業開講は週末金曜夜間、土曜日を軸とするもので、その受講生の多くは現役社会人の方や、あるいは第

二の人生を謳歌される方、主婦の方など多様です。また、本学の学生が参加したり、地元の高校生も学びに来たりするなど、異業種・多世代交流も特長のひとつです。

2017年度からは、学部開放科目の一部を新宮市で実施しています。新宮市では多くの現役高校生の参加があり、さながら大学のプレ授業を受けている雰囲気もあります。実際に、受講生の中から、和歌山大学を進学する&目指す学生も生まれており、良い循環が始まっています。

#### 4、これからの人材育成・学びのスタイルは

南紀熊野サテライトの設置から15周年を迎えることができました。この間、大学の中の様子も大きく変わりましたが、地域の環境もまた、変わりつつあると思います。授業風景を見てみますと、学部開放科目の“郷土学”シリーズが人気のようです。当地の豊かな自然の恵みでもある「ジオ資源」関係がテーマの回では、多くのガイドの方が学びに来られています。また近年では、助成財団や地元の自治体・協議会からの「寄付講義」も2科目開講しており、よりターゲットを絞った人材育成と教育カリキュラムの編成が行われています。

本学・栄谷キャンパスでは社会人向けのリカレント教育事業もスタートしました。南紀熊野サテライトでも、今後はより実社会の学びに貢献し、学び直しのニーズに応え、現場で知識や技術を活用することができる人材を育成する必要があります。今は、その転換期、過渡期であると思います。大学が大学であるために、サテライトがサテライトであるために、日々変わり続ける必要があるでしょう。

引き続き、皆様のご支援をお願いする次第です。



新宮市での授業風景

## 働きながら学ぶこと

経済学部大学院 瀧川泰彦 (46期)



人はこの世に生を受けて命が尽きて朽ちるという二つの事実と、その間の過ごし方次第で、豊かで愛のある人生を謳歌できるものです。

私は今年で82歳の誕生日を迎え、いよいよ終活を始めるかと考えている矢先、戴いたテーマが「働きながら学ぶこと」でした。何を今更と

考えたのですが、よくよく考えるとこのテーマがなんだか自分の半世を物語っているように感じ筆を取った次第です。

私のプロフィールは昭和32年3月(1957)勝山高校定時制普通科を出て、昭和34年(1959)積水化学工業(株)に入社、昭和42年3月(1967)近畿大学法学部法律学科卒業、平成11年3月(1999)積水化学(株)定年退職後和歌山に農業移住、平成22年4月1日(2010)和歌山大学南紀熊野サテライト大学院科目履修入学・平成25年3月和歌山大学大学院経済学研究科終了です。

お分かりのように高校から大学、更に大学院まで「働きながら学ぶ」の連続の半世紀でした。

両親を早くに亡くし祖父母に育てられた私は中学を出ると叔父の酒店(小売業)に丁稚奉公に出され、幸い親方の理解もあり定時制高校に入る事が出来ました。

定時制の4年間は境遇も似通った友の集まりで早くからのこの経験で心の通った友人がたくさん出来ました。まるで家族、今日でも同窓会を欠かしません。

酒の配達で、得た運転の技術、危険物の取り扱い、蒸留の技術、物流の流れなど数々の学習が同時に出来、自分の好奇心の高まりを感じるようになった矢先に卒業、就職でした。

当時定時制と言えば落ちこぼれとレッテルがはられていた時です。でも、私の場合仕事もさせていただき、祖父母を安心させ更に高校卒業という学歴まで手に出来たという喜びのほうが勝っていました。

経験は、強いものです。正規入社とはいきませんでした。時間をかけて就職先を探し積水化学(株)に入社出来ました。面白いのはここからです。

入社5年ごろ、初めて私の上司に、同じ年の大学卒入社の方が就任されました。負けず嫌いの私には面白くありません、しかし次々と提案される案件は、私の知識では到底及びも付かない事ばかりでした。とにかく問題の本質を見抜いた処置の速さとあの仕方は何だろう?の連続です。そうですここに「大学の教育の価値」があったのです。

それから大学教育を受けたくて勤めながら通信教育を見つけました。通信教育では、先生の人柄には触れる事が出来ません、最後の1年は無理をして夜学に通い、私には既に経験のあったことで苦にはなりません。

無事、法学士の資格を取得、勤務も本社勤務に代わり

事業本部の組織を預かり、その後通算40年間、定年を向かえる事が出来ました。

定年を向かえると同時に好奇心が講じて180度生活を見直し、紀の国和歌山へ移住、農業を始めサラリーマンでは経験できなかったジャンルです。

今度はアウトプットに徹すると心がけ、お米づくり塾を立上げ、都会の人を田舎に呼び、ともに農業の良さを語り苦悩する毎日です。

田舎には長きに渡る伝統が顕在する反面、危機的な転換期を迎えていました。

また、好奇心が目覚まし、それではと地元の和歌山大学大学院南紀熊野サテライトの門を叩きました。

私のテーマは「中山間地農業の再生と自立」です。

この問題を掘り下げるため更に、和歌山大学大学院経済学研究科へ進み研究中ですが、先の台風、日高川の氾濫、家は床上浸水・農機具の全滅と次々と押し寄せる自然災害・行き先を失った鳥獣類の被害・天候不良による作物の不振など問題は山積みです。

反面新しいIT技術・宇宙開発・永久凍土・CNF・自動運転・ロボットなどこれからの農業技術に展望も見え隠れしてきています。

山が宝・海が宝・地方こそ、新しい舞台、産学協同でこの難しい課題解決に挑んで見ませんか。

私事を、長々と申し訳ありません。私は「働きながら学ぶ」には人一倍の好奇心と、あきらめない心に徹する事ではないでしょうか。



お米づくり塾作業風景<籾の選定>



お米づくり塾作業風景<田起こし>

元の職業	積水化学工業(株)ライフグッズ事業本部 営業担当部長
現在	農業 都市農村交流「ゆめ倶楽部21」 インストラクター
趣味	家庭菜園、魚釣り、能面彫刻、竹細工等



Nanki kumano Satellite of Wakayama University

# 和歌山大学 南紀熊野サテライト 活動紹介



南紀熊野サテライトキャンパスは、  
県立情報交流センターBig.u内に所在

『和歌山大学南紀熊野サテライト』は、地域課題に対応した地域連携・貢献を推進するため、和歌山大学の知的資源を活かして南紀熊野における地域連携・貢献に関わる教育と研究及び、地域づくりの人材と地域課題に対応した事業に参画するための拠点です。和歌山大学が和歌山県と連携して田辺市の和歌山県立情報交流センターBig・U(ビッグユー)内に開設して15周年！

和歌山大学南紀熊野サテライトが地域のニーズに応え南紀熊野地域の活性化と文化向上を目的として、充実した高等教育サービスを提供できるよう、開設時から、和歌山県と地元自治体11市町村や関係団体による協議会「和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会」の支援を受けて活動をしています。大学の保有する高等教育機能を活用して、地域のニーズにあった諸種の高等教育及び生涯学習・地域連携事業を実施しています。現在までに、有料講座の受講者計が、1833名(大学院:経済学部科目等履修生(H17年~H29年)379名、学部開放科目生が928名、経済学研究科修士課程修了者数が8名)、その他に、観光創生を目指した地域経営塾の「南紀熊野観光塾」を実施しています。

## 活動 1. 高等教育・生涯学習・高校連携

### 高等教育・高校連携



紀南地域の田辺市、新宮市、他で、和歌山大学の授業や講座を開講しています。

授業概要

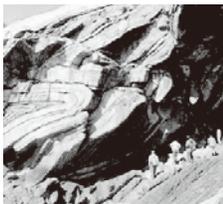
- 和歌山大学の教員が実際教室へ来て授業を実施。
  - 地域課題やフィールドワーク型の授業を展開。地域の方もゲスト講師で登壇。
  - 定員は大学院科目が若干名(教室定員10名)、学部科目が各30名。
  - 大学院は、社会人特別選抜試験を経て「修士(経済学)」の取得が可能。
- 和歌山大学の各種入試情報の発信や募集要項冊子の配架。  
高校生の方が和歌山大学の授業を受講体験できる学部開放授業も開催。



### 生涯学習リカレント教育

県、市町村教育委員会との協働事業へ参画・相談できるネットワークを構築、人材育成を実施。地域課題解決をテーマとする「公開講座」や、高校生や若い世代の方にもお茶を飲みながら気軽に参加して研究者と交流できる「サイエンスカフェ」も開催。地域の求めに応じた柔軟な学習機会を設置。

## 活動 2. 地域研究・地域創造支援



### 「地域研究の推進」

「地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業」実施や学生・教員の各種の地域での共同研究の支援や連携先の紹介など地域拠点として活用されています。

### 「人材育成事業を実施」

地域研究や地域課題解決を自立的に考える人材育成事業を実施しています。

## 活動 3. 地域連携・産官学連携

### 「南紀熊野観光塾」

紀南地域での持続可能な地域経営を担う中核人材の育成を目的として実施。その他、自治体などと連携した研修や企画事業を実施。

### 「きのくに活性化センターとの連携」

〈活動事例〉まちづくり実践、計画策定、調査研究事業など実施、田辺広域産業振興ビジョン、田辺市観光ビジョン、中心市街地活性化事業等

### 「地域振興へ向けた地域連携」

地域の企業、NPO団体との連携等

## 2月と8月に社会人受講生募集!

上限は何歳でもOK!何歳からでも学生になれます!

### 受講生の声

受講したきっかけ、授業に対するご意見



一緒に学ぶ学友が出来ます!

職場とは異なる出会いがあり、いろんな人と交流できました。(50代男性)

自分が暮らしている紀伊半島の自然や歴史文化を知りたくて。(60代女性)

生徒の皆さんも楽しい方が多くて楽しかった!(50代女性)

いろんな方々が学んでいます。公務員、会社員、教師、高校生、退職された方、主婦、自営業者、地域公益活動・NPO活動者等々

和歌山大学経済学研究科の大学院授業を開講しています。地域のキャンパスで、単位を取得して経済学修士を目指せます!



### 修士(経済学)取得の流れ

- 1 募集要項を確認して出願 >>> 入学審査に合格すると...
- 2 科目等履修生として受講開始 >>> 田辺市ビッグユーでの受講
- 3 一定の単位を取得 >>> 単位認定
- 4 大学院出願
- 5 社会人特別選抜試験・面接 >>> 合格すると
- 6 大学院正規生として入学 >>> サテライトで取得した単位がカウント可能です。
- 7 修士論文8単位を含めて30単位取得
- 8 修士(経済学)が授与されます



# クラブ紹介 準硬式野球部 (準硬式野球部 OB 会幹事長：松野浩行 23 期)

「準硬式野球」って何ですか？とよく聞かれます、わかりやすく言うと「表面・見かけが軟式ゴムボールで中身は硬式球でプレーする野球競技です。

ルールはプロ野球、高校野球などと同じです。

和歌山大学の準硬式野球部は、大学発足と同時に創立され、「近畿六大学準硬式野球連盟」に属し春季、秋季のリーグ戦、近畿国立大学体育大会、滋賀大学との定期戦などの対外試合に参加しています。

2017年に近畿国立大学体育会で優勝。

その勢いで翌年の春季リーグで好成績、関西ブロック戦を勝ち抜き、2018年8月に札幌で開催された「第50回全日本大学選抜準硬式野球大会」(清瀬杯)に出場したことがまだ記憶に新しく。個人では、リーグ戦で好成績を上げ、2018年の「第36回全日本ブロック対抗準硬式野球大会」(於：愛知県)に西山泰仙君、2019年には「中 華 民 国・日本第9回友好親善大学準硬式野球交流大会」(於：中 華 民 国)に山本晃靖君が選ばれ活躍。それぞれの選抜チームへ貢献しました。

OB会は和歌山、大阪、東京に支部があり、現役部員への支援、会員相互との交流を図っています。

人口減少、少子化などもあり野球人口の減少が懸念されている中、野球愛好人口の底辺拡大に、生涯スポーツの普及に準硬式野球の経験者へ大きな期待がかかっています。



試合風景



準硬式野球OB会写真



2019-2-23 OB戦

## 留学生から紀行の寄稿 于洪麟(イーホンリン) yu hong lin

僕たちは2月12日に、地元で留学生交流支援活動をするNPO法人(WIN)の方達に那智に案内して頂き、一日の日帰り旅なんですけど、昔の参詣聖地那智の綺麗な絶景を見させていただき、ほんとに満足しています。

那智は熊野古道の終点として、昔から聖地と知られているだけでなく、周辺は自然風景も昔のままで残っているから、大門坂の熊野古道を歩きながら、以前から参詣者を見守っている古木と出会ったりして、なんか昔この道歩いていた人たちの魂が見えるという感じがいっぱい溢れかえってきました。

せっかくこんな神聖なところに行くので、神様に自分の願いをちゃんと申し上げないとイケないです。

僕らは自分の願いや夢を護摩木に書いて、それを持って神社前庭のモッコクの木の穴に入り幹の中に一周し、この一年を無事に過ごさせていただくことを祈りました。

次は、那智の一番有名な那智の滝を訪れました。遠くから見ると、ものあわれという感情が強く沸き起こ

るけど、真下に着いたら、ほんとにショックを受けました。まさに龍門のように、水が上から飛び散り、岩に当たって雷のような音が鳴っています。

千百年以来、この水の流れは一度も止まったことがなく、また千百年以来、何人も人がこの水の流れを見ていて同じ感慨を発しているのか。その時この水の前で、人間はなんとちっぽけなものでしょうか。

そして、熊野三山の一つの熊野本宮大社に行きました。広さは那智より小さいが、中に祀られている神様は古事記に出た天照大神や日本国土を作った伊邪那美と伊邪那岐などの神様なので、そういう神様に僕らはもう一度敬虔の念を込めて祈りました。

那智の旅が短いけど、たくさんの方が勉強になりました。次にここに来るのはいつか？その時の那智は僕の記憶のままです

すか？多分那智のとまらない滝の水のように、ただ時間はその答えを教えてくださいませんか。

(于さんは、北京の首都師範大学から和歌山大学教育学部への交換留学生です。2月末中国に帰国しました)



## 松下会館の思い出

この高松は和歌山大学経済学部発祥の地である和歌山大学経済学部の前身である和歌山高等商業学校は大正十一年十月 この地に創立されたその後 同校は太平洋戦争最中の昭和十九年三月和歌山工業専門学校に転換され 高等商業学校の名称も 経済専門学校に改められた戦後 昭和二十一年四月 和歌山工業専門学校は和歌山経済専門学校に再転換され 昭和二十四年五月 新制大学発足と共に 和歌山大学経済学部となった 昭和二十九年四月 和歌山大学経済短期大学部が 併設された昭和六十二年八月 和歌山大学の移転統合に伴い 経済学部はこの地を離れた

平成十年三月  
十一代和歌山大学長  
小野朝男 書

和歌山大学経済学部は2年後に創立100年を迎える



令和元年7月1日 建築士会等の主宰による見学会

## 忙中有閑 閑中有忙

株式会社 山本進重郎商店  
社長 山本進三 (大産 39 期)



和歌山市から広く関西一円に数多くの事業を展開されておられる同社の和歌山市西浜本社に、山本社長をお訪ねし、お話を伺いました。

### 大学時代の思い出

学生時代については、授業・クラブ・バイトの三つしかやっていないような印象があります。課外活動は混声合唱団に所属していました。コーラスの練習は厳しく大変でした。バリトンのパートに属し、三回生のとき団長を務めました。関西合唱コンクールで銀賞を得たことが印象に残っています。

### 事業を継がれた思い

大学卒業後は父の事業を応援するため山進商事株式会社に入社、その後、知見を深めるために木材関係の大手専門商社の江間忠木材株式会社に勤め、26歳の時に事業を継ぐべく和歌山に戻りました。

当時、父は私が後継者にならない場合を想定し、事業を最小限に縮小していました。

### 事業展開

父は、私の復帰後の平成7年に、当時はまだ新しいプレカット工場を立ち上げ、関西広域に営業を拡大、短期間で事業を軌道に乗せました。平成8年、父の要請で私は弱冠27歳で社長に就任しました。

当時所有していた遊休不動産の有効利用を兼ねて、父の希望でもあった温浴事業にも進出しました。平成10年、和歌山市にスーパー銭湯ユーバスをオープンさせ、現在は大阪府下の二店舗を加え三つの店舗を営業しています。



「ユーバス和歌山店」露天風呂



平成26年にはシニアビジネスの発展を見越して訪問看護事業に進出しました。

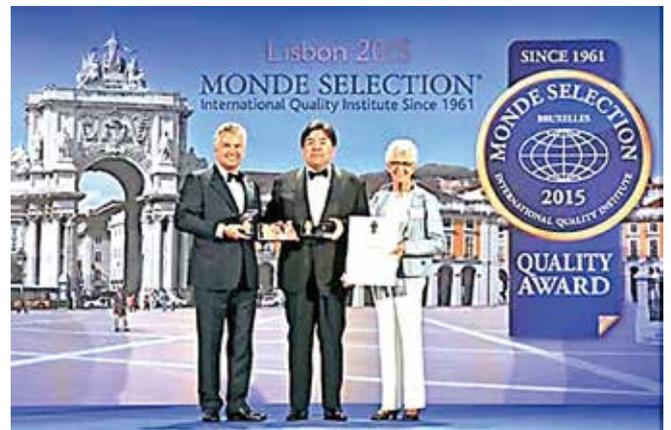
父の時代から取り組んでいたスポーツ事業も拡充し、制御ソフトの開発会社も傘下に持っています。

### 心休まる一時の過ごし方

旅行が好きで、機会があれば国内や海外の旅行に出かけます。

社員旅行や業界団体の視察旅行など主に仕事関係の旅行ですが、家族旅行も心がけています。

ユーバスの天然温泉を飲用水として販売したミネラルウォーター「美人湧泉」は、平成31年には7年連続でモンドセレクション金賞を受賞しました。授賞式会場は毎年ヨーロッパ各地で会場を変えながら行われるので、仕事と言いながら毎年楽しい旅を満喫しております。(訪問者 編集委員 渥美正道)



### 《会社概要》

創業：大正11年5月

本社：和歌山市

事業：木材プレカット加工販売 / 住宅建設 /  
訪問看護 / スーパー銭湯 / ゴルフセンター /  
バッティングセンター / 洗車場 / 保険代理 /  
モータープール / 不動産管理 その他

### 編集後記

そしてここから、柑芦会和歌山支部の新たな出発への起点となる機関紙を目指しました。記事の取材や寄稿にご協力頂いた各位に深く感謝申し上げます。

柑芦わかやま編集部 編集委員  
松野浩行、山中盛義、西川一弘  
編集委員(兼)事務局  
渥美正道、渥美盛也

### 地域のニュース募集

会員に知らせたい話題等を編集部まで  
お届け下さい。 atsumi@beach.ocn.ne.jp